

資料室便り

交通の専門図書館 交通経済研究所資料室

■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）



『地域の発展と鉄道 II』

地域交通を考える編
交通環境整備ネットワーク発行
2024年4月 / 1,500円(税込)
所蔵箇所：信濃町

一般社団法人交通環境整備ネットワークでは、鉄道の価値や地域と鉄道の関係について有識者による議論を重ねており、この集大成として2023年11月に「地域の発展と鉄道」を刊行した。本書はその続編として、「どっすー？地域鉄道」「地域の将来と利用者の視点に立った公共交通のあり方」「JR城端線・氷見線の再構築」の3章から構成され、それぞれが地域と鉄道のあり方の「考え方」「理論」「実践」を網羅したものとなっている。

「どっすー？地域鉄道」では、国土交通省大臣官房参事官の田口芳郎氏による基調講演「地域交通法改正のポイント～地域の鉄道はどうあるべきか～」に続き、東京女子大学現代教養学部教授の矢ヶ崎紀子氏のコーディネートで、田口芳郎氏、津軽鉄道株式会社顧問の澁谷房子氏、温泉ビューティ研究家の石井宏子氏によるトークセッションを展開。地方での人口減少や高齢化が進むなか、行政や地域住民は地域をどうしていきたいのか、そしてそのゴールに向かって鉄道はどんな役割を果たしていけるか、一緒に考えてほしいと問いかけている。 (原)

■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

『バス産業の規制緩和』

寺田一薫著
日本評論社発行
2002年1月
所蔵箇所：上野（一般公開中）

本書は、交通経済学の研究者（執筆当時東京商船大学助教授、のちに日本交通学会会長などを歴任）が、英国、フィンランドおよび日本のバス政策の比較を行い、バス産業の規制緩和について主にサービス品質の観点から論じたものである。

まず、非価格競争や経済的公正の考え方など、バス産業の規制に関する論点について経済学的考察を行っている。次に、英国における域内バスの規制緩和に至る議論と実施されてから約10年間のバス市場の変化、域内バス市場で生じた問題を解決するために実施された品質協定などを概観するとともに、完全規制緩和と競争入札の両方の政策を適度に組み合わせて実施しているフィンランドのバス政策をまとめている。さらに、日本の乗合バスの免許制度、運賃規制、公営バス制度、2002年の規制緩和を前にしたバス産業側の対応などを考察するとともに、域内バスに比べて規制緩和に馴染みやすいと考えられてきた都市間バスについて、日英間で比較を行っている。そして、バス産業における規制緩和のあり方と考慮すべき事柄について、まとめられている。 (古森)

資料室からのご案内

蔵書オンライン検索、新着図書・雑誌の情報、月別新着図書目録、所蔵社史・年史のリストなどは、資料室 HP (<https://www.itej.or.jp/about>) をご覧ください。

担当：古森崇史、原祥太、土方規義、田邊由佳

